

古新聞→かわいいエコバッグ

室蘭・ベーカリーあけぼので提供

活動支援施設あけぼの（荒井昌彦所長）が運営する室蘭市白鳥台のベーカリーあけぼのが今夏から提供を始めた、古新聞をリサイクルした無料エコバッグが「かわいい」と評判だ。プラスチック製レジ袋有料化をきっかけに、施設利用者が手作りしているが、予想外

予想外の人気

の人気のスタッフも驚いている。レジ袋の有料化を見据え、春先から準備を進めてきた。原則エコバッグの利用を呼び掛ける方針を確認したが「忘れる人や、持参したエコバッグでは足りない人も想定される」と考え、無料のレジ袋について検討を進めた。

コストをかけない手段として古新聞に着目した。動画投稿サイト



古新聞をリサイクルしたエコバッグ作りに励むあけぼのの利用者

に投稿された映像を参考に、作り方を研究。「パンが10個ほど入る大きさ」を目指し試行錯誤し、新聞紙を2枚重ねて折り込み、取っ手をのり付けする方法を採用した。

利用者7人が週3回、製作に当たる。施設が購読する室蘭民報やスタッフが自宅購読している新聞を持ち寄り、幅35センチ、高さ20センチ、奥行き10センチほどのバッグに仕上げている。記事や写真がそのままデザインになっており面白い。

あけぼのでは白鳥台の店舗のほか、販売車3台を使ってパンを売っているが、古新聞エコバッグは限りがあるため、基本的に店舗と販売車のうち1台のみで提供しているという。

渡辺夏美副主任は「皆さんに喜んでいただいています。物珍しさもあり『欲しい』との声もあるんですよ。『使い切り』と伝えていますが、大切に繰り返し使っている人もいます」と話している。（鞆子理人）